



おおいた市

懐かしい思い出の風景 変わりゆく大分のまち

「平成」という一つの時代が終わろうとしています。昭和から平成へと移りゆくなかで、大分のまちは大きく発展しました。まちの発展とともに、変わってしまった風景があります。今回は、懐かしい写真を見ながら昭和から平成にかけて振り返ります。



昭和32年頃

戦時中の大分海軍航空隊の飛行場跡に、昭和32年3月開設された。市街地に近かったこと、地形上の問題で滑走路の延長ができなかったことなどもあり、新大分空港へその役割を引き継いだ。現在、跡地は大洲総合運動公園となっている。

旧大分空港



昭和30年代前半

ホーバークラフト

昭和46年10月、現国東市に新大分空港が開港。同時に、市内と新空港を結ぶホーバークラフトが就航した。当初は陸路の約半分の時間で運行。平成21年にその役目を終えた。



平成6年頃

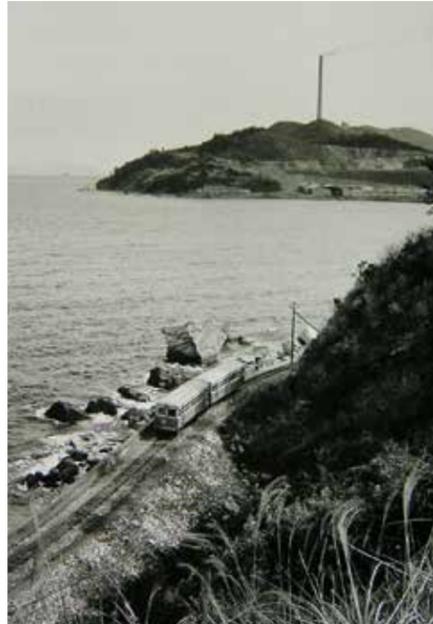
提供：栗林伸幸氏



提供：PPC(株)佐賀関製錬所

日豊本線幸崎駅に接続し、日本鉱業（現：パンパシフィック・カップ）佐賀関製錬所までを結んでいた。昭和21年に日本鉱業が運行を開始し、当初は同社の貨物運搬専用路線であったが、昭和23年には地方鉄道として旅客業務も始まった。現在は、鉄道の廃線敷を使ったサイクリングロードが整備されている。

佐賀関鉄道（軽便鉄道）



提供：PPC(株)佐賀関製錬所

大正10年に府内城内に完成。一部地下室を有する2階建ての「ドイツ風近世式」建築で、屋根は周囲の杉と松にマッチする中国青島製赤瓦を用いた。内部床面には鉄筋コンクリート上に練革を施した豪華な造りであった。

旧大分県庁



昭和37年頃

提供：大分合同新聞社



昭和47年頃（大分駅前）



昭和47年頃



昭和47年頃

提供：大分交通(株)

明治33年5月10日、九州で初めての路面電車が大大で開通。別大電車の愛称で親しまれ、市内交通の主役として活躍した。大分駅前からは市内系統（かんたん行）と別府・亀川行の2系統が運行され、市内系統は昭和43年にワンマン運転化された。昭和47年4月に別大電車は廃止され、72年間の歴史に幕を閉じた。表紙は、中央通りを走る別大電車。（提供：栗林伸幸氏）

別大電車

Lost landscapes

今はもう見ることのできない風景